

令和6年度 重点政策の検討方針 (案)

令和5年11月
北海道

政策検討の基本的な考え方

これまで

新型コロナウイルス感染症の影響など先行きが見通せない中、足元への課題に機動的に対応

現在

不透明な国際情勢など、本道を取り巻く環境が変化する一方、コロナ禍後の社会経済活動が活発化

令和6年度

○コロナ禍後初めての通年予算編成

- ・ 顕在化している(来年顕在化することが想定されるものを含む)課題や社会経済情勢の変化への対応
- ・ 日本・世界における本道の役割の重要性を踏まえ、コロナ禍後の社会を見据えた取組

本道を取りまく社会経済情勢

人口減少

交流人口の拡大
地域おこし協力隊の定着

気候変動

記録的な猛暑

DX・GX

デジタル技術の活用の広がり
脱炭素に向けた産業・社会構造の転換への動き
大規模DCの着工

子ども応援社会

全国を上回る少子化
国のこども未来戦略

不透明な国際情勢

世界的な食料安全保障・経済不安
ALPS処理水海洋放出の風評影響

次世代半導体

関連産業の集積
世界最先端・最高水準の製造拠点

道内経済動向

デフレ下における急激な物価高騰
均衡ある経済発展

人材不足

技能実習制度の見直し
時間外労働の上限規制の強化

インバウンドの再興

観光入込客の回復
オーバーツーリズム対策

ポストコロナ

国際交流の急拡大

社会経済情勢が変化する中、本道の魅力やポテンシャルを道外・世界に展開するとともに、
地域が躍動する政策に力点をおき、**さらに前へ**進めていく。

令和6年度の重点政策の検討方針

安心して住み続ける地域に



北海道らしい暮らしをはぐくみ、やさしく温かい地域をつくっていく

- 子育て政策の充実・医療福祉の確保
- 健やかに暮らせる生活環境
- 北海道に住みたい・働きたい
- 安心して暮らせる地域経済

北海道の魅力を世界へ



国内・世界から活力をよびこみ、地域にひろげていく

- 未来に向けた産業・人・投資が集まる
- 食をはじめとする道産品
- みんなが遊びに来たい北海道
- 四季折々の豊かな自然と歴史文化

政策検討における留意事項

- 地域の声を踏まえた施策検討**
民間や市町村など多様な主体との連携を図りながら、地域からの幅広い意見を踏まえた施策の検討を行う。
- 客観的データを根拠とした施策検討**
限られた財源を効率的に活用するとともに、課題に対して有効な施策を推進するため、客観的データを根拠とした施策の検討を行う。
- 新たな総合計画の検討との連動**
現在検討を進めている新たな北海道総合計画の方向性に連動した検討を行う。
- 国の制度の効果的な活用**
国の動向を十分注視し、国庫補助事業や地方財政措置などを効果的に活用した施策の検討を行う。
- 道庁が所有する様々な資源の活用**
これまでに培った事業実施のノウハウをはじめ、道が保有する資源を最大限活用した施策の検討を行うとともに、組織横断的な連携を図り、関連施策の一体的な検討を行う。
- 官民連携の取組の一層の推進**
民間との適切な役割分担の下、施策の効果が最大限発揮されるよう検討を行うとともに、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングなどの民間資金を積極的に活用した施策の検討を行う。